

HISTORY

SKYLINE JAPAN編

第1話 顔のない逃亡者

当時私は、仕事の関係で一ヶ月に3、4回広島方面に出張していましたが
事件はそんな中起きました。
出張時にはたいがい新神戸駅の駐車場に車をとめていたのですが
この駐車場、私が帰ってくる頃には既に閉まっており
出る人は料金箱に料金を入れて出て行くというなんとも素敵なシステムを
採用しており、私は思いっきりフリーな気分を満喫させて頂いておりました。

とある日、いつものように出張から帰ってきて駐車場の自分の車に向かっていると、いつもと車の雰囲気が違うことに気づきました。
良く観察すると、ナンバープレートがないのです。
ま、いいか。夜だし、誰も気づけへんわ‥と思ったその刹那‥
暗闇の向こうから私に近づいてくる人影が、しかも2人！
なんか知らんけどヤバイ！私の対立概念のエクトプラズムが
警鐘をならし始めた！！

To be continued・・

HISTORY

SKYLINE JAPAN編

第2話

ロベン監獄島

これ自分の？2人組のうちの年老いたほうが私をみて

白い息を吐きながら聞いてきた。

自分いつもお金払わずにでてるやろ。

今度は、隣の背の高いほうがあごをしゃくりだして聞いてきた。

おれのパラダイスパーキングが終わった瞬間だった。

10分後、駐車場の管理室のパイプ椅子に座らされ調書を取られていた。

4畳半ぐらいの狭い部屋で、奥の宿直部屋のほうから

ユーロビートが流れてきた。

To be continued · ·

HISTORY

SKYLINE JAPAN編

第3話 ダラスの疑惑

自分の車、名義変更してへんやろ？駐車場の請求が前の持ち主のところにいっとって、その人が今の今までここで自分が帰ってくんのを待ってはったんやで。えらい怒ってはったで。

ここに連絡先を置いていきはったから、振込用紙と一緒に渡しとくわ。

ほな、忘れんと駐車場代ここに振り込んだいてや。

もうかえってええで。

かえってええって、ナンバープレートないねんけど、返してくれません？

ナンバープレート？前の持ち主が持て帰ったんちゃうか。知らんで。

なんてこった！プレートがなきゃ帰らんねー

いっそ捨てちまおうか。それともプレートなしで帰るか。

しかし、おっさんらに見つかったショックから立ち直れていなかった私にはもはや法律を破るひとかけらの勇気も残されていなかった。

レッカー代もさることながら、

ハザード点灯でバッテリーまでいってしました。

しかし問題は、前の持ち主からプレートを取り戻すことなのだ。

To be continued · ·

HISTORY

SKYLINE JAPAN編

第4話 ビッグセーフ作戦

おう！おまえ！なに考えとんねん！
受話器のむこうで必死にびびらそうと声を荒げる前の持ち主がいた。
お前今から出て来い！
国鉄三宮駅の北つかわの xxx っていうサテンまで来い！

夜はスナックになるというそのサテンはクラウンのような内装の
エキセントリックな店だった。
奥のボックス席に向かうとそこには黒い皮ジャンを着た前の持ち主
らしき人物が、せわしなく煙草の煙を吐き出していた。

おまえ！なに考えとんねん！
・・・ていうか、な、なんで2回・・・
こうなりややぶれかぶれの口八丁手八丁。
いや、僕も名義変更したかったんですけどお、店つぶれてもうできへんかったんですよお。僕も困ってたんですよお。

なんや、あの店つぶれたんか。ほんまかいな。ふーん。
やった！態度が軟化してきた。
そりゃしゃーないな。ほんでどうすんねん。あの車。
名変するなんか？
いや、もうツレに売ろうおもてまんねん。
後はそのツレと話してもらえまへんか？
おっしゃわかった。

その後30分位世間話をし、クラウンを後にしたのでした。
後は、ジャパンを買ってくれるアホな、いや、いなせなツレを探すのみ！
疲れるでほんま・・・

To be continued・・

HISTORY

SKYLINE JAPAN編

第5話 ビッグセーフ作戦

会社の同期のU田くんていうヘルメットをかぶったような頭をしたやつが
いたのですが、そいつに10万で売れました。

U田君喜んでました。
私も、たぶん前の持ち主も喜んでました。
みんなに喜んでもらうこれがプロの仕事っちゅうもんや！
(by ナニワ金融道 桑田氏)

完